



TIFA会報

Tachikawa International Friendship Association

2013年12月12日

Vol.106

立川国際友好協会

発行責任者 斎藤 寛

編集責任者 山崎員弘

文化の相互理解を

事務局長 柏田泰利(木曜)

ボランティア活動の内容は様々だが、一般に欧米人に比べ日本人はボランティア意識が低いと思っていた私は3年前TIFAに入会し、会員の熱心な活動に驚き、20年余の歴史の重さを感じ



ている。さて、なんの経験もない私に何ができるか、会則に明記されたTIFAの目的に沿って、まずは日本語教室に来る生徒の要望を聞きそれを叶えたいこと、次はもちろん日本語の支援、3つ目は日本文化に馴染んで貰うことにした。

これまで受け持った生徒は5ヶ国10数人で、既に日本語が堪能で日本社会や会社の仕組みなどを雑談したい人、日本語検定合格を目指す人、読み書きは上手く不得意な会話能力を磨く人、主婦感覚で日常生活のことを話題にする人、メモ用具や電子辞書を持参し勉強熱心な人、すぐに来なくなった人、実に十人十色だが誰でも歓迎。時には授業内容が飽和しマンネリ化して自分の未熟さを痛感し、会員間で授業の工夫を話し合いたいこともある。

ところで、文化の交流・相互理解もTIFAの目的の1つだが、文化とは一体何だろうか。或る本に「文化と言う言葉は、ある特定の集団内で共有され、世代間で継承される言語・習慣・政治・宗教・芸術・世界観・価値観・倫理観など全てを含む生活様式の総合体」とある。

平たく言えば其々の集団や国の特異性全てだと理解しても良さそうだ。外国人が日々の暮らしで接する両国文化の大差は言葉や食であり、時間感覚もそうだと思う。

「パーティーに招かれた時、パーティーの開始時刻前に到着して待っているのは日本人、開始時刻丁度に来るのはイギリス人、20分後にF人、30分後にI人、40分後にS人、2時間後にP人が到着、その頃自宅を出るのがM人」と言う小話がある。

我々会員が日本語教室に遅刻しない、遅参や欠席する時は必ず事前連絡する等々で、日本人の身近な時間感覚を生徒は肌で感じるだろう。

いずれにしても、会員も生徒も異文化の交流や日本語の授業を仲良く楽しく継続していけば国際色豊かな「TIFAの文化」が醸成されるかもしれない。

TIFATIFATIFATIFATIFATIFA

南砂小の国際交流教室

今回は9名の受講生が参加

11月28日(木)、恒例となった南砂小の国際交流授業に木曜教室の中・上級受講生を中心に9名(フィリピン5名、台湾、韓国、エルサルバドル、ブラジル各1名)、引率者として、山崎(耕)・(員)さんが参加しました。

7月に行った同じ4年生の65名が5～7名で一組になり受講生と交流しました。今回のテーマは”外国人と仲良くなろう、皆で一緒に楽しもう”で独自のゲームや質問事項などを準備しており、校内各施設の案内にはじまり、折り紙、机取りゲーム、かるた、双六を始め、各々の国の言葉、挨拶、数字の数え方、食べ物などへの質問、一方校庭では組体操、キックベースボール、ペットボトル等々寸分の休む暇もなく我が受講生をリード、いずれも児童と馴染み、一生懸命交流してくれる姿に感動しました！！



最後は、12時予定がお互いに別れがたく、30分も玄関先で過ごす羽

目に、名残惜しんでいたのが印象的でした。(KY記)。。

以下は高田ジェニファ(フィリピン)さんの感想文(原文のまま)
11月28日、楽しいことあって、4年生たちとはじめて日本のがっこうのことおしえてもらった。私もじぶんのことばも、おしえてあべました。ありがみもゲームやってみました。あと、たいいくかんとところで、はしってあそんでました。7人のグループたちは、とても楽しかった。

TIFATIFATIFATIFATIFATIFA

立川で暮らす外国人 その3

外国人に対する重点施策の抜粋から

木曜教室 佐藤達夫

前回外国人の悩みなど取り上げ、そうした様々な問題に対する市の施策の中から「重点施策」とされているものを一部抜粋してみました。なお、詳しく知りたい方は市が作成公表している資料も図書館などがあるので参考にしてください。(基本計画や多文化共生推進に関する資料等々)

(外国人市民のコミュニケーション支援事業)

① 外国人への相談窓口——この事業は「たちかわ多文化共生セ

ンター」に委託をされている。相談内容は、住居、仕事、教育、暮らし一般まで。毎週水曜、土曜の午後1時から4時まで。女性総合センターで。対応言語は、英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語。相談者数は、データは少し古いが平成21、22年度それぞれ80人前後です。また、弁護士、行政書士など専門家による無料相談会も実施されている。

② 日本語教室の開設——TIFAに委託（重点施策に位置づけられている）。他に外国人のための生活ガイドブックの作成、庁内通訳サービス、通訳ボランティアバンク運営他。

（外国人市民の生活支援事業）

＜防災対策推進事業・防災訓練事業＞

防災訓練への外国人の参加は、例年大変少なく、参加率を高めるのが今後の課題であり、東日本大震災から防災に関心が高いが、いつどこで防災訓練があるかなどの情報が外国人まで届きにくいようです。外国人向けの「ごみの分け方・出し方」パンフレット作成他。11月からごみが有料になり、木曜クラスも周知のため出前口座を開催した。

（多文化共生の地域づくりについて）

＜外国人の自治会等参加事業の促進＞

今までは日本語教室の受講者を対象に自治会をPRし、自治会への加入を促したりなどしてきました。今後周知啓発はサークル活動、PTA、バザーなど様々な機会を利用して周知を図ることが必要であると指摘されています。

他に多文化共生交流事業として世界ふれあい祭での各国文化紹介など。学習館での国際理解講座などを行っています。

市の施策全体として、いろいろな試みはあるが、外国人は市民の中では少数派、なかなかキメの細かいケアは足りないと思われる。そこでTIFAや多文化共生センター、自治会、民生委員、市民活動センターなどの各機関のネットワーク化を図り、情報を共有し各機関の協力を得て施策を進めることが重要と多文化共生推進委員会から提言がされています。外国人が、日本で暮らすには、言葉の壁、心の壁、制度の壁という三つの壁を乗り越えねばならないと言われていますが、制度は、行政なり作る側が、利用者の要望を聞いて使いやすい仕組みに変えて行くことができます。私たちも一緒に声をあげて行く必要があります。さて、最終回は、市内の各機関の中から、外国人の孤立化防止などに役立つ市民活動センターのサロン事業を取り上げたいと思います。

TIFATIFATIFATIFATIFATIFA

☆☆TIFA 会員動向☆☆ （敬称略）

【入会者】土曜：（11月）石井恵治（八王子市緑町）

TIFATIFATIFATIFATIFATIFA

中国・北京での日本語教師（第2報）

土曜教室の坂本篤子さんが、8月下旬、北京にわたり北京理工大学外国語学院日語科で、日本語会話・日本概況・日本通史の教師として活動しています。今回はその第2報です。

北京理工大学（http://www.spc.jst.go.jp/education/university/univ_007.html）は、市の西北に位置し、学部生と職員あわせて2万人を越える総合大学です。学生は全寮制で、教職員も多くが構内に住んでおり、スーパーから病院まであるいわば1つの街といえる規模です。私は外国人教師アパートの2階（2LDK）に住んでいます。家賃と光熱費（使いすぎなければ）は大学の負担です。労働報酬については、ボランティア精神に富む人というのが応募条件ですので、ご想像にお任せします。

週に3日の勤務ですが、5教科の授業を担当しているので忙しい、今は特に1学期末（9月～1月）の試験の準備に追われていますが、日本語を学習したいという学生の意欲に応えるものですが、ある意味楽しみながらやっています。

構内の夜の光景 大学内の公園では年齢の高い人々が音楽を流してダンスをしたり、充電式の電気スタンドを持参して遅くまでトランプなどをしている。グラウンドにはウォーキングやジョギングしたりする人でいっぱい。

街の様子 地下鉄が充実している。どこまで乗っても1回2元（日本円で30円ちょっと）。バスは1回0.4元（日本円で7円くらい）。公共交通の使用で環境を守る意図もあるようだ。大気汚染のひどさはたまに感じる程度。バナナ・蜜柑・リンゴなど果物屋の明るい色合いを見ると嬉しくなる。

大学の授業の様子

1、女子学生は化粧をしていない。ファッショナブルで日本の若者と変わらない。自分の考えをきちんと持っている。



2、日本語の授業はみなよく予習してくる。積極的に話そうとする。日本のアニメや歌手のグループが大好きで、そこから日本に興味を持ったという学生は多い。

3、授業中でもコートを着たまま受ける。2時間の続き授業なので、飲み物を机の上に置いておき、途中喉が渴くと授業中でも自分の都合で飲む。さすがにものを食べることはしないが、最初、私は驚いた。

4、2年生でも、日本語での会話が十分できる。授業でパワーポイントを使い発表するときも、原稿を見ながら日本語で立派に

説明できる。やはり大学生なので理解力があると感じる。

5、「幸せだと感じることは？」という質問に、「家族と一緒にいるとき」とほぼ同じ答えが返ってくる。みな故郷を遠く離れているからだろうか。しかしこの返答は当たり前で自然のことであり、かつ最も重要なことなのではないかと改めて思った。

6、日本語学習で難しいことは、聞き取りだそうだ。実際4年

生になってもうまく聞き取れない例がある。日常の会話は、人によって話し方も用語も少しずつ違うので当然かもしれない。

7、また、これまでの授業から感じたことは、助詞の使い方が正確ではないということ。中国語には日本語のような助詞がないのでその要領をつかむことが第一関門かも知れない。敬語は授業の中で繰り返し扱うことで、他の項目に比べるとさほど問題にならなくなる。他動詞と自動詞の使い分けや、「を」「が」「は」の適切な使い方が身につくには、理屈ではなくたくさんの用例を示して、感覚的に覚えてもらうのが良いのではないかと考えている。

たった3ヶ月で何がわかったと言うことはできませんが、日中関係については微妙な雰囲気があることが作文などを通じてわかります。しかし学生が「最初は偏見もあったが日本語を学んで今は日本が大好きになった。もっといろいろなことを知りたい」と言った言葉に、お世辞ではない熱意や誠意を感じ、私もそれに応えるべく気持ちを新たにしました次第です。

人と人がじかに話をすることは、誤解を少なくする最良の方法かも知れません。与えられたこのチャンスが無駄にしないようにします。木々がすっかり葉を落とした冬の構内にて。

TIFATIFATIFATIFATIFATIFA

小澤登美子さん(木曜)の絵画・シャンソン

今回は、水彩画から油・パステルと絵画の領域を拡げ、しかもシャンソンも好きで装いもパリエーションを思わせるような小澤登美子さん(木曜)に登場いただきました。

——小澤さんと言えば、TIFAでは古いメンバー？とうかがっていますか——

そんなことはありませんよ。でも会長さんは5人ですからこれ13年でしょうか。土曜からはじまり、土、木曜ダブル、それから木曜だけになりました。

——絵画を始めた動機は？——

もう20年以上になりますか、大胆なタッチで力強さがありながらも、どこか心が充たされるような懐かしさが感じられ、水の表現、空や空気の表現などが素晴らしい平川進一(日本水彩画評議員、国立に教室)先生の絵に魅了され水彩をはじめ11年、そのあと油を渡辺綾子先生にならい、パステルは独学となりました。モネ、ルノアールの絵が好きです。

——主な描画の対象は——

静物、風景何でも好きですが、花を描くのが多いかしら。

——公募展などはいかがですか——

号数で言うと100号、200号となり、女手では、搬入も大変なので、、、せいぜい80号位までに、とくに最近は10号前後にきめて、グループ展や市民文化祭などが中心です。

加齢とともに、趣味の一環として描画を楽しんでいます。

11月3日から始まった柴崎学習館での第68回立川美術展では同会の会員と



しても活動され、写真の油彩画「薔薇」「郷の春(萩の島)」を出展されていました。3月には春季展を恒例に行っているようです。

——シャンソンも本格的にやっていたとか——

ピアフやイブモンタンなど詩的な人生を語るようなメロディに憧れ、高関詢子先生(深緑夏代さんの門下生)についたんですが、、、でも発表会が嫌で嫌で、私、実は、ガラスの心臓なんですよ。

——先日、越路吹雪さんと一緒だった岩谷時子さんが亡くなりましたが、——

訳詩も良いけど作詞家としてもいい歌を一杯残されましたね。越路さんの[人生]「アムステルダム」なんかもいいですね。

でも私はどちらかと言ったら[水にながして]「詩人の魂」「時は過ぎてゆく」なんかが好きなんです。(後日、シャンソン通に伺ったら、シャンソン中のシャンソンと言われるほどの名曲だとのこと)でもカラオケにいてもシャンソン曲が無く、歌う機会がなくさみしいですよ。

——益々のご活躍を期待しましょう!!(聞き手:山崎)

TIFATIFATIFATIFATIFATIFA

異文化体験



TIFA版 お・も・て・な・し

私が日本語教室の会員になって初めてのイヤーエンドパーティの準備に当たった時に、国際交流をするうえで大事なことから学んだことがあります。日本中クリスマス一色の時期、先輩に「日本語教室はなぜイヤーエンドなのか」とお聞きした時のことです。

「教室では様々な国や民族の方が学んでおり、それぞれに異なる歴史や文化・習慣・宗教などを持っていらっしゃるのです。クリスマスパーティにする訳にはいかず、食事も豚肉や牛肉を食べることができない方たちもあり、豚汁というわけにはいかない。それ

で汁物はずっと鶏肉で作るけんちゃん汁なのです。カレーも鶏肉で」と教えていただきました。また同じお皿に盛り合わせる品も気を使うことを教えていただきました。日本で暮らす外国人に対するあたたかな心遣いに感銘しました。

こんなこともありました。ランチパーティのときでした。にこにこグラスを持って会話をしている受講者がいたので、食を進めたところ、今はラマダンなので日が沈むまで口にできないという。夏の暑い時にジュースを入れたグラスをもって決して口もつけずにびっくりしました。また知り合いの外国人が日本の会議の後の招待宴に招かれた時、その方に「お食事はいかがでしたか」とお聞きしたところ「すばらしかった。」と答えられましたが、よくお聞きすると結局、「刺身の太根のつまを少しいただいたから大丈夫」とのことでした。本当にお気の毒に思いました。日本でのパーティはそんなことが多いようでした。日本のようになんでも食べることができる国で「あれはだめ、これは食べられない」ということを遠慮している外国人のために、思いやって心を使うことは国際交流していくうえで大切なことだと思います。(MK記)

TIFATIFATIFATIFATIFATIFA

☆☆各種行事報告☆☆

1、秋のバス旅行

10月20日(日)年に一度のバス旅行も、あいにくの雨模様の中の出発となりました。

今年は初の試みとして、柴崎・松中教室の両方を集合場所としました。両教室から多数の受講生・ボランティアが参加しましたが、集合場所が2ヶ所と便利になったおかげもあってか、一人の欠席者もなくほぼ定刻通りに出発することができました。満席のバスは一路鎌倉を目指しますが、しかし、不安であった天候はますます悪くなり、鎌倉に着いた頃には豪雨と言ってもいいほどでした。

初めて見る巨大な大仏に感嘆する声も多くありながら、寒さと豪雨のためにじっくりと見物できない状態なのが残念でした。そんな豪雨の中でも「撮影に邪魔だから」という理由で傘を差さずに雨に打たれながら笑顔で記念撮影する猛者もおられました。

一通り大仏を堪能したあとは大仏の目の前のお店で湯葉定食の昼食となりました。健康的で「和」を感じる昼食は好評で、湯葉を食べたことがない生徒も興味津々に食事を楽しんでいました。

バス旅行の締めくくりは江ノ島水族館。巨大な水槽を泳ぐ魚の

群れと、すばらしいイルカのショーは非常に興味深く驚

きを感じるものでした。

島国である日本では魚は比較的身近な存在ですが、そうでない受講生にとっては初めて見るものも多かったようです。特に小さなお子さんは大はしゃぎでした。

天候に恵まれなかったのは残念でしたが、バス旅行恒例?の渋滞にも巻き込まれることもなく、予定よりも早く立川に戻ってこられたのは、その悪天候のおかげ。その点だけは天候に感謝です。(TU記)

2、秋の楽市 ー世界ふれあい祭りに参加ー

11月3、4日、昭和記念公園みどりの文化ゾーンで、秋の楽市が開催され、TIFAは例年通りバザーに参加しましたが、4日は生憎の雨で残念な思いをしました。

いろいろな団体が参加して、立川の魅力を発信する祭りですが、世界ふれあい祭には、タンザニア、エジプト等世界の国々が参加し、お国自慢のアクセサリなどの小物や料理など来場者もエス

ニック気分を味わっていました。

TIFAもこのブースに参加し、斎藤会長以下多くの会員が朝早くから準備や2日間にわたりバザーでの販売などに



参加してくれました。お疲れ様でした。TIFAのテントでは、事業の紹介、日本伝統文化の着物着付け教室とさまざまな品物の販売を実施しました。当日のバザーは、会員皆さまの協力でたくさん品物が集まり、これを廉価で販売し、皆さまの協力のおかげで、72,090円の売上は会の催しなどの貴重な財源になります。この場を借りてお礼申し上げます。(TS記)

3、土曜教室研修会

11月16日(土)16時から18時まで、柴崎学習館で、土曜教室研修会が行われ、22名の参加者(うち木曜クラス3名)がありました。

日本語教育研究所の長崎先生は、「日本語初級学習者に対するボランティアの教え方」というテーマで、熱心に話されました。ケニアでの日本語教育、日本語学校、武蔵野地区でのボランティア教師の経験をふまえ、初級者への教え方、初級文法などが話されました。講演後の質疑も活発になされました。

「大学に入るという同じ目的をもち、長期間決められたカリキュラムに沿って教える日本語学校は、やり方もはっきりしている。しかし、地域ボランティア教室では、学習者の目的はさまざまなので、教える側は、多様な要求にこたえられる努力や力量が求められる。ある意味では、学校よりは難しい面もある。」と語られたのは、少し考えさせられました。



参加者の「良かった」という評価もいただき、今後も教室として地道にこの活動を取り組んでいく予定です。(橋本土曜教室部長記)

TIFATIFATIFATIFATIFATIFA